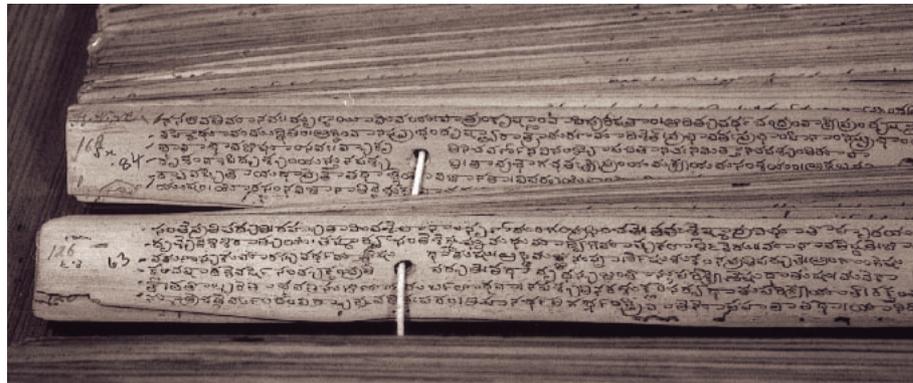


古典の写本(4)インド学分野



インドでは、紙が使用されるようになるまでは、ヤシ科の植物の葉（パーム・リーフ）を利用して写本が作られることが多かった。やや硬く、厚みのあるパーム・リーフを乾燥させ、同じ大きさに切りそろえ、写本の頁とする。その表面に文字を刻み込み、そこに木炭粉などで色をつけ、文字を浮き立たせるのである。

写真は、インド伝統医学文献のうち、最も古い層に属する『ペーラ・サンヒター』の写本（南インド、タミルナードゥ州タンジャーヴールのサラスヴァティー・マハル・ライブラリー所蔵 Burnell No.10773）とその一部の葉である。大きさは3.8×42cm。葉表面に見える左右2つの穴は、ここに紐を通して各葉（全部で202葉）を綴じるためのものである。この写本の言語はサンスクリットであるが、南インド系テルグ文字によって表記されている。作られた年代については1650年頃とする説（Burnell）もあるが、保存状態が比較的良好ことから、もっと新しいものかもしれない。

右はこの『ペーラ・サンヒター』第4巻冒頭部分のテキスト（一部欠如）と試訳である。明らかに筆記ミスと考えられる部分はテキストを修正した。〔 〕内は訳者による補足。

==== māno
'vatiṣṭhate |
jātasya dāsame māse nāmagotre
susamskr̥te |
taruṇasya kumārasya vardhamāneṣu
dhātuṣu |
asthimajjasu pūrṇeṣu śukraṃ na
pratipadyate |
aṅgāṅeṣu suvr̥ddheṣu pratimūleṣu
dhātuṣu |
śukraṃ ca ṣoḍaśe varṣe suvyaktaṃ
pratipadyate |
tathā vr̥ddhasya jantōs tu parikṣiṇeṣu
dhātuṣu |
vivekā na yathāpūrvam vivicyante
parikṣayāt |

…〔胎児は？〕…しながら留まる。10ヶ月目に生まれた〔子供〕の名前とゴートラが〔マントラによって〕よく清められ、幼い子供の身体要素が増加し続け、骨と髄が満ちた時、〔彼はまだ〕精子を得ない。16歳になり、身体各部で、〔先行する各要素に〕それぞれ源をもつ？身体要素が完全に成長すると、〔彼は〕きわめて明瞭な精子を得る。また、老人の身体諸要素が衰えつつある時は、以前のように、〔先行する各要素からの〕身体諸要素の〕離異は識別されない。〔かくして、精子は減少する。身体諸要素の〕消耗により。

徳永宗雄（インド学分野責任者・京都大学）